



小野 有理さん(48)

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス 社長CEO兼グループCEO

プロフィール

1974年、大阪市生まれ。早稲田大第一文学部卒。経営コンサルティング会社に勤務後、2005年に独立。16年6月にダイヤモンド電機社長就任、18年10月からダイヤモンドエレクトリックホールディングス社長CEO兼グループCEO。早稲田大ラグビー部コーチとして清宮克幸監督の下で03年1月の日本一に貢献。



鳥取市のダイヤモンド電機が、脱炭素社会に向けて地産地消のエネルギーネットワークづくりを始めた。ダイヤモンドエレクトリックホールディングス(大阪市)の社長CEO兼グループCEO小野有理さんの肝いりだ。根底には鳥取の地で希望退職を募った断腸の思いがある。鳥取市長と面談し、胸に刻んだ決意が「鼓腹撃壤」だった。

(聞き手は論説委員長・深田巧)

未来に向けて

16年6月、私はダイヤモンド電機の社長に就任した。コンサルティングとして若手社員の教育に携わったことがきっかけだった。ダイヤモンド電機は米国の独自禁止法違反による経営が立ち行かなくなっていた。そのタイミングで、創業一族から経営を継承された経緯がある。19年1月に田淵電機(大阪市、現・ダイヤセラ)電機を仲間化(グループ化)した。ダイヤモンド電機との相乗効果や経利率を指す「吸引分割」というグループ再編の中で、21年10月、ダイヤモンド電機の会社能力次第の事務所が鳥取の工場へ移した。田淵電機が手がけていたパワーソリューションのユーザーなどを対象とする雇用の創出を図った。

持った。共に働く中で、親子どもを病室や事故にへししたために、お悔やみを申し上げる場だ。献杯の席上、仲間たち大変不安を抱いていた。悲しみを共有することはできないが、私としては「精励奮闘、前を向いて人生を切り開いていこう」とそれぞれに握手した。リストラは過去の企業の弱みに起因しているとはいえ、私自身が背負わなければいけないと思っている。



ダイヤモンドエレクトリックホールディングスの看板(大阪市)と点火コイルの生産現場(鳥取市) = 写真はコラージュ

鼓腹撃壤に 脱炭素社会へ地産地消 エネルギー網構築へ

ダイヤモンド電機はもと、1967年に製造拠点を鳥取の地に築いた歴史があり、現在は25人(2)の元正社員は355人が働いている。鳥取市は約8億円で、2023年度までに1.5倍に増やしたい。また、パワーソリューションの製品もダイヤモンド電機で手がけ、量産する意向だ。

鳥取の地について、私はもともと「思うことがあがるグループ戦略の中で、鳥取は「果敢の場所」でもあろうと考えている。鳥取市の創生は海井桂流だ。「一井の中の蛙、大海を知らず」に、後世の人は「これぞの青き知る」と続けた。青きを知るを以て大海に出るよな人材を輩出できればと思う。地元鳥取の教育を卒業し、ダイヤモンド電機に入社した仲間が大阪でパワーソリューションを営業する仕事に名前を上げた。若い人にとって、工場はなれば御の手も足りないが、それだけではない。未来をクルミアとして描いていく。

鳥取市長の連任要請書を受けた。引き継ぎの職業継続と再出発後の発展に努めていた。17年、「責任持つて万全の対策を尽くしていただく」と「地域経済の不安解消に最大限の配慮をいたす」とあった。再就職のめざせ、工場の建て直しに取り組みしていただけに、突然の要請書に当

感じたと言っけりも、怒りがこみ上げてきた。希望退職を募る幹部の面々も希望退職を受け入れる仲間たちも、つらかった。私は知事、市長に腹を申し込み、経緯や取り組みを説明した。すると、深沢義彦市長は不快な思いをさせたのと応じてくれた。一鼓腹撃壤。平和な世の中をつくるには為政者の務めだ。そして、経営者の務めは鼓腹撃壤がなすように促していることなのだと思っ。

編集後記

小野有理さんへのインタビューで、深沢義彦鳥取市長の名前が出た。しかも、市長が論じた名前の一言的印象的だったため、市役所へ裏取りに走った。「小野さんはインタビューで市長発言を紹介し、○○○と語っていますが、いかがですか。」市長に聞いたら、「私は小野さんを信頼しています」と返ってきた。かくして、インタビュー記事に市長発言を盛り込み、その時の小野さんの受け止めを記事の柱にした。「鼓腹撃壤」の地産地消が今回のボイスの主眼です。

(随時掲載)